

科学研究費助成事業（若手研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----------------|---------------------------|
| 課題番号 | 20674001 | 研究期間 | 平成20年度～平成24年度 |
| 研究課題名 | 志村多様体を核とした数論幾何学, ガロア表現, 保型表現の総合的研究 | 研究代表者 (所属・職) | 伊藤 哲史 (京都大学・大学院理学研究科・准教授) |

【平成23年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|-----|--|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| ○ B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

(意見等)

研究代表者は、本研究の下に若手研究者を中心とする数多くの国際研究集会および研究打合せを実施し、総合的研究を推進し、分野の裾野を広げるという点では十分な成果を上げている。一方、その活動の中で自身は、3次元ジークル多様体のエタールコホモロジー及び4次シンプレクティック群のラポポート・ジーク空間のエタールコホモロジーに現れる超尖点表現に関して成果を得、研究集会等で発表を行っているが、未だに学術論文として公表していない。研究成果をタイムリーに論文として纏め出版することは研究活動の基本であり、現状では研究の遅れを指摘せざるを得ない。成果は出ているのだから、早急に論文執筆に取り組むことを強く期待する。

【平成25年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | 志村多様体 の分岐の研究を進展させるという野心的な研究テーマである。 |
| B | しかしながら、2年前に「研究進捗評価結果」で指摘された、「研究成果発表の遅れ」については残念ながら、あまり事態は改善されていない。資料に添付された欧文論文も、印刷予定にもまだなっていないと思われる。また添付論文3つのうち2つは、「志村多様体」以前の話と思う。 早急な研究成果の発表を強く望む。 |